

令和7年第10回総務産業常任委員会 要点記録

開閉会日時	令和7年10月15日（水曜日）				開会	13:00		会議場所		別海町議会 委員会室2・3	
					閉会	14:29					
委員の出欠	1 番	市川 聖母	出席	3 番	高橋眞結美	出席	6 番	宮越 正人	出席		
	9 番	小椋 哲也	出席	11 番	今西 和雄	出席	12 番	松、 政勝	欠席		
	14 番	佐藤 初雄	出席	15 番	戸田 憲悦	出席					
産業振興部	産業振興部長		産業振興部次長			農政課長		商工観光課長			
	小野 武史	出席	大坂 恒夫	欠席		皆川 学	欠席		掘込 美穂	出席	
	水産みどり課主幹		水産みどり課技術主幹			商工観光課主幹		農政課主査			
	寺澤 淳司	欠席	古里 達也	欠席		上杉 大洋	出席		金澤 亮太	欠席	
	農政課主査		農政課主査			商工観光課主査					
	佐々木正博	欠席	西郷 博之	欠席		山下 真弘	欠席				
	建設水道部長		建設水道部次長			管理課長		建築住宅課長			
	外石 昭博	欠席	新堀 光行	欠席		入田 浩明	欠席		廣島 静治	出席	
	事業課長		建築住宅課主幹			事業課主幹		事業課主幹			
	佐竹 和仁	欠席	篠田 敬介	出席		板垣 正博	欠席		前道 陽司	欠席	
	上下水道課主幹		上下水道課主幹			管理課主査		管理課主査			
	西田 和弘	欠席	植松 拓也	欠席		池田 友和	欠席		大滝 毅	欠席	
	建築住宅課主査		上下水道課主査								
	志渡 正勝	欠席	木村 洋平	欠席							
	委員外の出席							合計		0名	
事務局職員	局長	入倉 伸顕				合計		1名			
傍聴者数	議員	0名		報道関係者		0名		合計	0名		

会議に付した事件及び会議結果など		
発言者	会議経過 ※所管毎に議事を行う事情等により議事番号が前後することがある。	
委員長 11 番 今西	13:00 開会、出席委員 7 名、欠席委員 1 名、委員外 0 名、会期 1 日。	
委員長 11 番 今西	<p>経営管理部所管事務調査</p> <p>議事 1 所管事務調査について</p> <p>(1)ふるさと交流館周辺等の地域活性化拠点再生構想について</p>	
委員長 11 番 今西	<p>・ふるさと交流館の再整備に係る宿泊事業者との意見交換会</p> <p>ふるさと交流館の再整備に係る宿泊事業者との意見交換会を開会する。</p> <p>7 月 28 日の常任委員会で所管からプロセスとスケジュールについて説明があり、委員会として事業者の意見も聞くべきという話が出たため、本日の開催となった。</p> <p>参加者の自己紹介。(宿泊事業者、委員、産業振興部職員、建設水道部職員)</p>	
産業振興部長 小野	<p>・日頃から商工観光業への理解と協力に感謝する。町側として宿泊業者の意見を聞きたく同席した。</p>	
商工観光課主幹 上杉	<p>・事業概要説明として、ふるさと交流館は、平成 3 年開業、鉄筋コンクリート 2 階建て、延べ床面積約 2,000 m²である。運営経過は、平成 3 年から平成 17 年まで第三セクター、平成 18 年から平成 20 年まで指定管理者、平成 21 年から平成 26 年まで賃貸借契約、平成 26 年から令和 3 年まで指定管理者制度で運営した。令和 2 年度の住民アンケート結果により入浴機能のみ継続となり、令和 3 年 6 月から直営で入浴のみ営業している。</p> <p>令和 6 年度の観光アンケートでは、レストラン再開、入浴機能維持充実、宿泊機能再開、SNS 発信、物販充実が上位となった。これらの実現可能性と採算性を含めた計画、基本設計を来年 9 月頃までに策定することを目指している。令和 11 年度からの供用開始をゴールとしている。</p>	
委員 9 番 小椋	<p>・計画段階から宿泊事業者の意見を参考にし、どういう施設にすべきか、期待することなど、様々な意見を聞きたい。</p>	
宿泊事業者 A	<p>・ターゲットは出張客中心となるのか。出張客向けの部屋が足りていないのか。</p>	
商工観光課長 堀込	<p>・宿泊施設の廃業により市街地に泊まる場所がない状況がある。別海パイロットスピリッツ設立など人が集まる仕掛けができていますが、滞在機能がないとお金が町に落ちない。観光客については尾岱沼から別海・西春別への流れを作り、滞在機能があればと考えている。</p>	
宿泊事業者 A	<p>・朝早く海鮮を買いたい客が多いが、9 時開店では対応できない。もう少し早い時間や遅い時間に入る場所があると便利である。</p>	
宿泊事業者 B	<p>・大規模になると収支が合わなくなる傾向があるが、その見込みをどう考えているか。</p>	
商工観光課主幹 上杉	<p>・基本設計の中で、ターゲット層やボリュームを設計会社と検討しながら進める。</p>	
宿泊事業者 B	<p>・宿泊施設不足で中標津に客が流れているのは事実で、それを解消していかなければならない。</p>	
宿泊事業者 C	<p>・部屋数は決まっているのか。あまり大きくすると既存のホテルや旅館が大変になる。行政はそれを考えているのか。</p>	
商工観光課長 堀込	<p>・どのぐらいのボリュームが最適かを検討中である。宿泊事業者の経営の支障にならないよう、すみ分けや、冬場に人が集まる仕掛けづくりも必要と考えている。</p>	
宿泊事業者 C	<p>・最初にふるさと交流館ができる時、どういう事業者と話し合いをしたのか押さえているか。</p>	
産業振興部長 小野	<p>・当時も地元宿泊事業者から同様の問題点が指摘されていた。すみ分けと町全体に人を呼び込む仕</p>	

		<p>組みづくりにより、WINWIN の関係で共存共栄できるよう、行政として考えていく。</p>
委員 9 番	小 椋	<p>・欠席事業者の意見紹介として、宿泊事業者 D は、別海町のランドマークとなる施設が必要で、完全にすみ分けができるとの意見である。</p> <p>宿泊事業者 E は、別海地域の宿泊競争力を高めることに賛成だが、明確なコンセプトと黒字経営、経営者が施設建設段階から関わることが重要との意見である。</p>
委員長 11 番	今西	<p>・欠席事業者の意見紹介として、宿泊事業者 F からは、スポーツ合宿の受け皿として、文化関係の全国大会時の受け皿も念頭に入れて欲しいとの意見があった。</p>
宿泊事業者	G	<p>・民泊の増加により飽和状態の懸念がある。外国人観光客の見込み、地域密着の重要性について伺う。</p>
商工観光課長	堀込	<p>・すみ分けを行い、人が来る仕掛けづくりを検討する。外国人観光客は年々増加している。</p>
宿泊事業者	G	<p>・地域活性化には人を呼び込むことが必要で、行政と民間の密な意見交換が重要である。</p>
宿泊事業者	H	<p>・大きい宴会場がほしい。子供たちの世代に廃墟を残すのではなく、30 年 40 年 50 年 60 年使える計画を立ててほしい。</p>
産業振興部長	小野	<p>・人口維持・増加に向けて取り組み、ふるさと交流館を別海町のランドマークとして考えていきたい。多くの意見を聞きながら進め、赤字にならない形をとっていきたい。</p>
宿泊事業者	I	<p>・宿泊業は大変厳しく、現在の建物では息苦しい感じがする。デザインだけでなく快適な空間が重要である。外部からの客の取り込みや人材確保が課題で、命をかけてやる気持ちがないとできない。</p>
産業振興部長	小野	<p>・公設民営も含めて基本設計で議論し、快適な空間づくりと機能性を考慮する。差別化もしっかり考える。</p>
宿泊事業者	B	<p>・現在の宿泊フィーバーは 4、5 年で終わり、その後冬の時代が来ると思う。老朽化したホテルを運営している業者を無視されると困る。</p>
委員 1 番	市川	<p>・人材確保が最重要課題で、ベッドメイキングや掃除の繊細さを引き継ぐのは困難である。行政の力も借りながら持続可能な担い手育成が必要である。子供たちも楽しめる施設づくりを望む。</p>
委員 15 番	戸田	<p>・公と民の経営概念は全く違う。ネット社会でキャンセル率 50%という現実がある。官民の力で総合的な対応が必要である。第三セクターから指定管理者制度に変わった。ふるさと交流館も二転三転した。</p>
宿泊事業者	I	<p>・第三セクター方式では、町が金を支出し民間が管理する形で利益は民間が持っていく。ここまでは出すがあとは自力で利益を出すという約束事がないと、誰がやってもうまくいかない。</p>
宿泊事業者	G	<p>・当初から携わった人間として耳の痛い話である。町から提示された内容と実際の運営で数字が合わず、失敗したら撤退も検討したが、継続することとした。賃貸借で始まった経緯もあり、自分も関わった以上梯子を外すわけにはいかなかった。</p> <p>経理以外の役員として携わったが、中身的には相当厳しい状況であった。指定管理者制度では町からの支援は限定的で、不足分は自分たちで工面する必要がある、資金繰りに相当苦労していた。職員を抱えるほど人件費負担が増大する。</p> <p>当施設は家族経営のため経費は抑えられているが、働き方改革等により時間規制が生じ、多くの職員やパートを雇用する必要が出てくるため、今後様々なリスクが発生すると考えられる。</p>
産業振興部長	小野	<p>・戸田委員をはじめ皆様のご意見はまさしくその通りである。同じ失敗をしたくないというのが正直な気持ちである。この場で全て黒字にする、成功させると約束したいが、どうなるかわからないのが現状である。そうならないよう、皆様の意見を聞きながら進めることが重要と考えている。</p> <p>過去の経緯をしっかりと踏まえ、反省しながら進めなければならない。所管も含め、行政として責任を持ってしっかりと進めていく。皆様と連携・協力しながら進めていきたい。</p>
委員 14 番	佐藤	<p>・全国的にインターネット時代となり、別海町ならではの特色が必要である。忌憚なく意見を出した中で</p>

		進めないと前に進まない。
宿泊事業者	A	・知床、根室、阿寒、摩周に 99%の客が行く。別海町に行く理由、泊まる理由が必要である。中標津でもただ寝るホテルばかり増えており、そこでしか得られない体験や感覚がないと厳しい。
宿泊事業者	G	・温泉の掘削状況に関する意見として、現在の温泉掘削で 40 度台まで上がったと聞いているが、42 度、43 度になれば加熱費用が下がる。
商工観光課主幹	上杉	・1,100 メートルまで掘削完了し、どの位置から取水するかを調整中である。
宿泊事業者	H	・宿泊なしの計画も考えてほしい。飲食は町内に不足している。
商工観光課主幹	上杉	・宿泊、飲食、物販の実現を目指している。べつかい割クーポンなどの支援はすぐやめることはない。担い手の部分も含めて、支援をしていきたい。
宿泊事業者	G	・実業団誘致の程度により宿泊施設の作り方が変わる。給食センター活用で食事面はクリアできると思う。
商工観光課長	堀込	・コロナ禍前には 12、3 チームが合宿に来ていたが、現在は 5、6 チームに減少している。宿泊施設不足でお断りしているチームもある。本町の冷涼な気候と広大な土地を活用した合宿の誘致は、本町の PR になると思うので、考えていきたい。
宿泊事業者	I	・人材が重要で、そこに行けばあの人に会えるという人が必要である。
宿泊事業者	G	・温泉熱を利用した果樹園や野菜園などの構想も考えられる。
宿泊事業者	A	・そこに行く理由、泊まる理由が必要である。
宿泊事業者	C	・実業団対応は 3 食のご飯の準備など大変である。スタッフの充実が必要である。
委員長 11 番	今西	<p>・今日は事業者の皆さんに意見を聞かせていただいた。議会として初めての取組であったが、非常に有意義であった。</p> <p>町が進めているホテル事業は、そのホテルだけが繁栄するのではなく、町全体の繁栄の一環として共存共栄を目指すものである。今後 1 年間をかけて、町民の意見、事業者の意見を聞きながら、議会委員会としてもしっかりと見守り、必要なことは発言していく方針である。</p> <p>本日は皆さんの貴重なお時間をいただき感謝申し上げます。冬が近づいているので体調管理に心がけて過ごしていただきたい。</p>
委員長 11 番	今西	14:29 閉会